地域の安心

災害に強いまちづくりをめざして

家族の安心

# 災害図上訓練

# DIG（ディグ）のすすめ

「DIG（ディグ）」とは、地域で地震など大きな災害が起きた場合を想定し、みんなで対応を考え、大きな地図に書き込みを加えながら、ワイワイ楽しく議論する防災訓練のひとつです。

Disaster（災害）、Imagination（想像）、Game（ゲーム）の頭文字を取って名付けられました。

DIGという言葉には、「災害を理解する」「まちを探求する」「防災意識を掘り起こす」という意味も込められています。

阪神・淡路大震災では、救助された約3.5万人のうち約2.7万人が近隣住民によって救出されました。
また、避難所では、日頃の町内会活動が活発な地域ほど、円滑な運営がなされ、被災者の生活を支えました。

**わたしたちの防災意識を高め、いざという時に住民がたすけあえる地域づくりのために、**

**あなたのまちにあったDIGを見つけて下さい**

## DIGの4つの特徴

### 1 全員参加で楽しく議論

参加者が大きな地図を囲み、議論を交わしながらすすめます。

### 2 簡単で安上がり

決まったルールがなく簡単で、経費もほとんどかかりません。

### 3 「わがまち」の防災マップが完成

地図に書き込みをすることで、地域の防災マップができあがります。

### 4 地域の防災力と連帯感が向上

日頃気づかなかった地域の防災対策が明らかになり、参加者の防災意識と連帯感が向上します。

# 地域でDIG

# あなたのまちにあったDIGを見つけて下さい

## 事前準備

### ❶用意するもの

- 被害想定と過去の災害履歴
- 避難所のリストや防災パンフレットなどの活用資料

### ❷作業に必要なもの

- 地域の大判地図
- 透明ビニールシート（地図にシートをかぶせれば何回でも使えます）
- 油性ペン（色分けできるように8色くらい）
- 場所のマーク用シール
- 話し合いの内容をまとめる紙、模造紙、ふせん紙など
- ペンの修正用のベンジン、ティッシュなど

## スタート

## 1 お互いを知る

- はじめに自己紹介をして雰囲気づくりをします。
  （私は避難所で何ができるかなどを発表しても良いですね）
- グループのリーダーを決めます。

## 2 被害状況の説明

- 被害想定を参加者がイメージできるように説明します。

（例）「〇〇沖で地震発生！マグニチュード8.0、震度6強」

- 自分や家族は無事で、安全が確保されている
- 室内は家具などが倒れ散乱している
- 電気、ガス、水道はすべてストップ
- 自宅の周辺では倒壊している家もある
- 火災の発生も予想される
- 〇〇橋が壊れていて通行できない
- ××交差点は渋滞中

## 3 地図への書き込み

- 幹線道路、河川、防災施設、危険が予想される場所などを色別マジック・シールなどを使って地図へ書き込みます。
  ※防災施設（例：避難所、病院、防災備蓄倉庫、役場等）
  ※危険が予想される場所（例：津波や山・崖崩れなどの危険予想地域等）
- 被害状況をもとに、各自が思いついたことをふせん紙など使って地図にどんどん貼っていきましょう。

## 4 話し合い

- 書き込まれた地図を見ながら、起こりうる被害やその対応を全員で話し合います。

（例）「80歳の〇〇さんは、ひとり暮らしだが大丈夫かな？」

- どんな行動をとりますか？
- 問題点は何ですか？
- 日頃からできること、やらなければならないことは何ですか？

DIGには決まったルールはありません。
あなたのまちに合ったDIGを見つけて下さい。

## ③準備にはこれも大切！

- どんな内容のDIGにするのかを決める。
- DIG全体の進行役を決める。
- グループ分けをする。（1グループ5～10名）

## 5 成果発表

- 作成した地図と話し合った事柄を、グループごとに発表します。
- 他のグループが自分たちとは違う発表を行った場合は、なぜそのような行動をしようと思ったのか考えてみましょう。

## 6 講　評

- 最後に、行政や消防署の担当者など、アドバイスができる方がいれば、話し合いの様子や発表の内容などについてコメントしてもらいましょう。

### DIG体験者の声

◎避難時には近隣への声かけ、避難先等のメモを残すことが大切だとわかった。
◎避難所を覚えていないことがわかった。
◎身体の悪い人への気配りを体験できた。
◎日常の注意点、隣近所とのふれあい、命の大切さがわかった。
◎地域のみなさんとの連携を大切にしていきたい。
◎普段考えていなかったことが見えてきた気がする。
◎地域を知ることの大切さがわかった。
◎自分だけではなく、友人や他の地域の人にもDIGを体験してほしい。
◎町内会の役員を務めているのに、いざとなったら我が身のことしか考えないことに気付き恥ずかしかった。

※ここで紹介したDIGは一例です。DIGをもっと詳しく知りたい方は、「静岡県地震防災センター」のホームページが参考になります。

# DIGを通じて、こんな活動が展開されています。

## DIGから生まれたウオーキング・パトロール（WAP）
## 散歩しながら、目配り・心配りのパトロール

函館市の元町町会（700世帯）は、函館山の山麓に位置する高齢者率が30％を超す地域です。そのため、高齢者の方々自らが自分たちの住むまちは自分たちで守ろうと、ウォーキング・パトロール「ＷＡＰ：walkingpatrol」活動に取り組んでいます。ＷＡＰとは、「散歩しながら、目配り・心配りのパトロール」をするもので、住民が散歩をしながら、まちの環境や変化などへの目配り・心配りをし、定期的にその状況を話し合って、災害の予防に努めるとともに地域の連帯意識を強めています。

ウォーキング･パトロール中の皆さん

## DIGの実践と防災サポート隊の結成
## 災害時の高齢者支援と防犯パトロール

白石区北郷親栄第一町内会（625世帯）では、「防災サポート隊」を結成して、災害時の高齢者等への支援体制づくりをすすめています。まず、役員、民生委員、一般住民を対象にした３回のＤＩＧ実施により防災マップを完成。その後、民生委員の協力を得て、ひとり暮らしの高齢者世帯を訪問して災害時の支援について説明し、18名の方々から同意を得ました。防災サポート隊は、救急救命講習の受講者16名の隊員からなり、民生委員等と連携して高齢者18名の方々を災害時に優先的に救助、避難誘導するためのマン・ツー・マンの体制づくりをすすめるとともに、児童下校時の防犯パトロールを毎週月・水・金の３回実施しています。

防犯パトロール中の皆さん

## 災害弱者の名簿「地域と共有」を…
## 自治体に厚労省通知

新潟県中越沖地震で、お年寄りや障害者などの安否確認が迅速に行われなかったとして、厚生労働省が、災害時などに避難支援が必要な「要援護者」の名簿を地域と共有できるような体制作りを求める通知を8月10日付で全国の自治体に送付した。個人情報の配慮から情報提供をためらう自治体が広がっていることから、第三者提供できるよう条例の規定改正の必要性にも踏み込んでいる。

今回、10人のお年寄りが亡くなった新潟県柏崎市も、約6千人の名簿を３月にまとめていたが、要援護者の安否確認や避難支援計画が未完成で、町内会や民生委員との情報共有はしていなかった。市内に住むひとり暮らしの高齢者2672人のうち7月16日の地震発生から3日間で連絡が取れたのは2割強。全員の安否が確認できたのは21日午後だった。

［朝日新聞2007年8月20日付より］

# 家族でDIG

# わが家のDIGで家族の安全もチェック

## 1 わが家の安全チェックと役割分担をしよう

### ●まず、わが家の安全チエックをしましょう。

- 耐震対策は済んでいますか？
- 家具が倒れて、避難の妨げになりませんか？
- 家具の固定、ガラスの飛散防止対策は大丈夫ですか？
- 消火器はすぐ取り出せる場所にありますか？
- 非常持出袋はすぐ持ち出せる場所にありますか？
- ブロック塀に亀裂などはありませんか？

### ●家族で災害時の役割分担を決めておきましょう。

- 地震時→避難口の確保は？火の始末は？
- 避難時→火の元の確認は？非常持出袋の持ち出しは？
- お年寄りの手助けは？
- 初期消火の担当は？

**そのほかにも、あなたの家にあった安全チェック・役割分担をしてみましょう。**

## 2 地図に書き込もう

### ●自宅周辺の地図を準備し、家族で書き込みをしましょう。

（適当な地図がない場合は工夫してオリジナルの地図を書いてみよう）

- あなたの家の位置を地図にマーク。
- 災害時に家族が集まる避難場所にマーク。
- 自宅や学校からの避難コースを記入。
- 自宅周辺や避難コースにある防災設備や危険な場所を記入。

※防災設備（例：消火栓、防災備蓄倉庫）

### ●災害で家族がバラバラになった時の集合場所・連絡方法は決めておきましょう。

- 集合場所・連絡方法は複数想定して優先順位を決めておく
- 災害用伝言ダイヤル**「171」**を覚えておく

**被災者は**

**「171＋1＋自宅の電話番号」**にかけて安否を録音

**伝言を聞くときは**

**「171＋2＋被災者の自宅の電話番号」**で再生

## 小学生のぼうさい探検隊

ぼうさい探検隊とは、子どもたちがまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、マップにまとめる教育プログラムです。楽しみながらまちを探検することで、子どもたちが自主的に災害への備えや身近な危険について考え、気付くことができます。また、地域の人たちとの交流によって、地域への関心や愛着が生まれてきます。

まちなか探検

気付いたことを発表

完成したマップ

社団法人日本損害保険協会ホームページ：http://www.sonpo.or.jp/

## 平成19年新潟県中越沖地震で…

16日午前10時過ぎ、地震が襲ったのは、休日の昼間でテレビを見ている時だった。母はうどんを作ろうと、台所で鍋をコンロにかけ、火をつけた直後。立っていられない大きな揺れで、室内の壁がはがれ、棚は倒れた。床は足の踏み場がないほど散らかり、コンロまでの道をふさいだ。「大きな地震のときは、火を消すよりも先に自分の身を守ること」04年10月の新潟県中越地震を経験した柏崎市の小林さん(20)は、地域の会合での呼びかけを思い出した。火はそのままにしてうずくまった。大きな揺れが収まってから母とすき間を縫って玄関口へ。玄関近くに置いていた非常用持ち出し袋を探し出し、やっとのことでブレーカーを落として外へ出て、屋外のガス栓を閉めた。揺れが始まって4、5分後だった。

［朝日新聞2007年7月23日付あなたの安心シリーズ 緊急点検地震の備え①より］

■発行日／平成19年9月1日
■発　行／有限責任中間法人 北海道町内会連合会

〒060-0002
札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター
TEL 011-271-3178　FAX 011-251-3971
http://www.d-choren.or.jp/　E-mail: info@d-choren.or.jp